

## 令和7年度 第2回太良町教育環境整備検討委員会会議録（要点筆記）

日 時 令和7年7月17日（木）14：00～15：30

場 所 太良町中央公民館 2階視聴覚室

出席者 委員 18名

高松委員長、鶴田副委員長、赤木<sup>久美子</sup>委員、大岡委員、坂口委員、大鋸委員、合浦委員、佐藤委員、巨瀬委員、西田委員、田崎委員、川浪委員、陣内委員、赤木<sup>一成</sup>委員、熊本委員、喜多委員、武富委員、森委員

事務局 9名

岡教育長、與猶学校教育課長、西田社会教育課長、福田学校教育係長、岡指導主事、松本生涯学習係長、織田スポーツ振興係長、木原文化振興係長、石丸係員

欠席者 委員 3名 古庄委員、松本委員、永渕委員

### 1. 開会

- ・委員の紹介 太良町スポーツ協会理事長が大鋸寛氏から佐藤正也氏へ交代。  
(学校教育課長)

### 2. 委員長挨拶

- ・高校野球佐賀県大会の開会式にて太良町出身の高校生が元気に選手宣誓を行う姿や、試合で活躍する姿に非常に感心した。
- ・先月、芦刈観瀾校と白石中学校の視察を行った。視察結果やこれまでの議論を踏まえて、皆さんの意見をいただき、太良町立小・中学校の今後の方向性について議論していただきたい。

### 3. 報告事項

視察研修の報告（学校教育課長）

①小城市立小中一貫校芦刈観瀾校

②白石町立白石中学校

（質問・意見等）

大岡委員：芦刈観瀾校は、老朽化や耐震補強が必要な状況だったとあるが、児童生徒数を教えてほしい。

→ 小中一貫校になった当時は、小学校 273 人、中学校 150 人。現在の児童生徒数は小学校 199 人、中学校 105 人である。（学校教育課長）

合浦委員：白石中学校では、8つの小学校から子供たちが入学してくるので、クラス編成に非常に苦労しているという話をされていた。このことは報告書に入れてほしい。

→ 確かに白石中学校ではその話をされた。主な回答を抜き出して掲載したが、そのことは漏れていたので修正を加える。（学校教育課長）

岡指導主事：白石中学校統合の協議会が開催されている時期に福富中学校に赴任していた。

当初、福富小学校も白石小学校に統合する方針だったが、旧福富町に学校が無くなることに對して、住民より「小学校だけでも残してほしい」との意見があり、福富小学校は残ることになった。このような経緯から、旧福富町の子供は小学校は福富小学校、中学校は白石中学校に通うこととなった。当時から福富小学校は単学級だったので、中学卒業まで9年間クラス替えもなく同じメンバーで過ごしていたが、福富中学校が白石中学校に統合されたことでクラス替えができるようになり、これはメリットといえる。デメリットとしては、生徒数が多くなり生徒指導面での問題があると、白石中学校校長の話にあった。

大岡委員：統合する前と後で白石中学校の不登校の生徒数に変化は見られるのか。

→ 具体的に不登校の生徒数は聞いていないが、特別支援学級は10クラスあると聞いている。(学校教育課長)

#### 4. 協議事項

「太良町立小・中学校の教育環境の整備に関する報告書（案）」について

(学校教育課長説明)

(1) 今後の方向性について協議。各委員の発言を求める。

(2) アンケート結果や委員の意見をもとに、事務局で報告書の素案を作成し、次回の会議で示すことを承認。

(質問・意見等)

(1) 学校再編の方向性（案）をまとめるにあたっては、委員の皆さんの意見が必要となる。順番に委員の意見を伺いたい。(高松委員長)

鶴田副委員長：今まで教育の現場にいた岡指導主事はどのような考えを持っているか、参考にしたい。

→ 小学校はそれぞれ残さないと、その地域の活性にならないと思う。中学校は場所をどこにするにしても統合だと思う。(岡指導主事)

大鋸委員：それぞれの地域に小学校は残したい。コスト面からみても中学校は1校に統合。

赤木久美子委員：今までは、中学校は早く統合した方がいいと思っていたが、統合しても何年後かは単学級になると思う。小学校は多良地区と大浦地区それぞれに残したい。中学校は統合した方がいいと思う反面、そのまま残してもいいのではないかと、気持ちが揺らいでいる。

大岡委員：最初は、小学校はそれぞれ残し、中学校は統合の方向で考えていたが、統合しても将来的に単学級になるのであれば、中学校同士を統合するよりも小中一貫校として進んだ方が良いと思う。

- 合浦委員 : 統合して環境を変えることは必要かもしれないと思うが、逆に同じ環境の中で育って行く方が地域に対する愛着が湧くのでないかとも考える。どのような形態がいいのか決めかねている。
- 佐藤委員 : 校区に縛られるのなら、多良校区で小中一貫、大浦校区で小中一貫として、その校区のシンボルとして残したい。
- 巨瀬委員 : メリット、デメリットを考えたとき、小中一貫より統合だと考えている。中1ギャップは必要だと思う。小学生から中学生に階段を1つ上という環境の変化を大事にしたいと思っている。つまり、小学校は現状のままで、中学校は1日も早く統合をした方がいいと考えている。
- 西田委員 : 小中一貫校は反対。小中一貫校では小学校独特の教育の柔軟性が減るというデメリットがあり、授業についていけない児童が出てくると思う。小学校はそのままであって欲しい。
- 田崎委員 : 結婚を考えた場合、住むところに学校がないと居住地の選択肢から外れると思う。小中一貫も統合もメリットとデメリットがあると思うので、運営や建設費、維持費について検討すれば、どちらがいいのか見えてくると思う。芦刈観瀾校の先生はデメリットがほぼないような感じで言われていたので、小中一貫はいいなと思った。
- 川浪委員 : それぞれにメリット、デメリットがあると思うが、デメリットを恐れるだけではなく、変化することでメリットが生まれることにフォーカスしてもいいのではないかなと思う。小中一貫校、統合校どちらでもいいと思う。
- 陣内委員 : 今の時点では意見が示せない。再編を決定する際の優先順位や財政的な制約条件など、太良町の長期ビジョンがあれば良い決定ができるのではないかと考える。
- 赤木一成委員 : 子供を第一に考えて、社会で通用する子供たちをつくるためには早く合併して鍛えて欲しい。
- 熊本委員 : 小学校はそのまま、中学校を統合。小学校では、自分が生まれ育った地元の方々と触れ合いながら、自分の住んでいる地域から学んでもらいたい。また、統合された中学校では、小学校ではうまくいかなかった子供たちが、中学生になったら新しい仲間と学べるということがメリットとして働くと考えられる。
- 喜多委員 : 小学校はそのままがよい。多良と大浦それぞれで、そこだけにしかないものを小学生のうちに伝え、大切にしたいと思う。
- 武富委員 : 小学校はそのまま、中学校は統合でもいいと思う。小中一貫校となった場合には、高校に行って初めて広い世界に出ることになる。高校生となる前の段階で色々な学びをしていきながら、次のステップに活かせるようにしてあげることがいいのではないかと考える。
- 森委員 : 小学校はそのまま、中学校は統合した方がいいと思う。小中一貫校で9年間そのままで行くより、いずれ1クラスになるとしても、統合された中学校で新たな友達と出会うことで、人間関係が広がると考える。

坂口委員 : 基本的に小学校はそれぞれ残して、中学校は、どこかの段階では統合していかないといけない状況だと思う。ただ、保護者でも考えがそれぞれに分かれるだろうし、様子を見ながら考えていかないといけない。

鶴田委員 : 小学校は今のまま残し、中学校は統合した方がいいと思う。大浦中学校に統合という方もいるかもしれないが、統合するなら多良中学校に統合した方がいいのではないか。校名は「太良中学校」とする方がいいと思う。

(2)「太良町立小・中学校の教育環境の整備に関する報告書(案)」の、前半部分は本日示した内容となる見込み。後半部分は、本日皆さんからいただいた意見やアンケート結果を集約するなどして、次回の検討委員会で提案させていただくが、よろしいか。

(高松委員長)

→ 委員承認

5. その他

なし。

6. 次回開催日 令和7年9月22日(月) 14:00 に決定

終了 15時30分